3-03

課題［地域の公共複合施設］

工学部建築学科 建築設計演習Ⅲ

課題担当 南一誠／郷田修身／古屋浩／小澤雄樹
非常勤講師 佐田野剛／安宅研太郎／小川文象
TA 西田倫正／信原拓弥

3年次後期（前半）に行う本設計演習では、「地域の公共複合施設（図書館機能を主体とする）」を設計対象とする。地域性（敷地や場所が有する固有の特徴等）を踏まえて、また施設に求められる公共性（公開性、利用、福祉等）についえて十分に調査・分析、考察を行い、設計の前提となるプログラムを各自の検討作業により明快にする。地域社会の抱える社会的な課題や、新しい機能が模索されている公共施設のこれからの在り方を検討し、与えられた設計課題に対して、建築設計、ランドスケープデザインを通して、解決方法を提示する能力を修得する。地域連携科目として、最終講評会には江東区都市計画課長、図書館長をお招きして実施している。

設計条件｜敷地：江東区深川図書館は江東区清澄3丁目に立地している。深川図書館の現位置に建て替えても、その東の公園広場や児童公園の場所に建て替えても良い。あるいは、道路を挟んで向かい側の仙台堀川に面した細長い敷地に計画しても良い。現在の深川図書館を再整備するとしたら、どの場所に計画するのが最も妥当であるのかを、建築計画的な視点からだけでなく、都市計画的な視点や工事計画の視点からも検討する。｜施設の計画内容：清澄通り沿いに隣接する、深川ふれあいセンター（深川老人福祉センター）や平野児童館など、地域の公共サービス機能を総合的に取り込みことも検討する。子育て支援、青少年活動支援、市民活動支援の諸機能や生涯学習の機能を複合化して、地域の総合的な生活拠点となり、新図書館がこの地域の持続的な発展に寄与する施設となることを期待する。｜期間：7週間

緑地な図書館 | Library built by green borderless between nature and artifact | 木村健人 | Kento Kimura

［天然物と人工物のボーダーレス化］

清澄白河に現存する緑地区域には鬱蒼とした清澄公園と芸術的な清澄庭園が存在する。それらの緑地を地域拠点のプラットホームにし、地域の価値を高める図書館を設計する。植物と建築は不動的であるため、外部からの要素が不可欠である。植物のメカニズムを建築に落とし込み、建築に必要な“にぎわい”を展開させる。外部内部をボーダーレスに繋ぐことで、都市と緑地を近いものに感じることができる。

fig.01

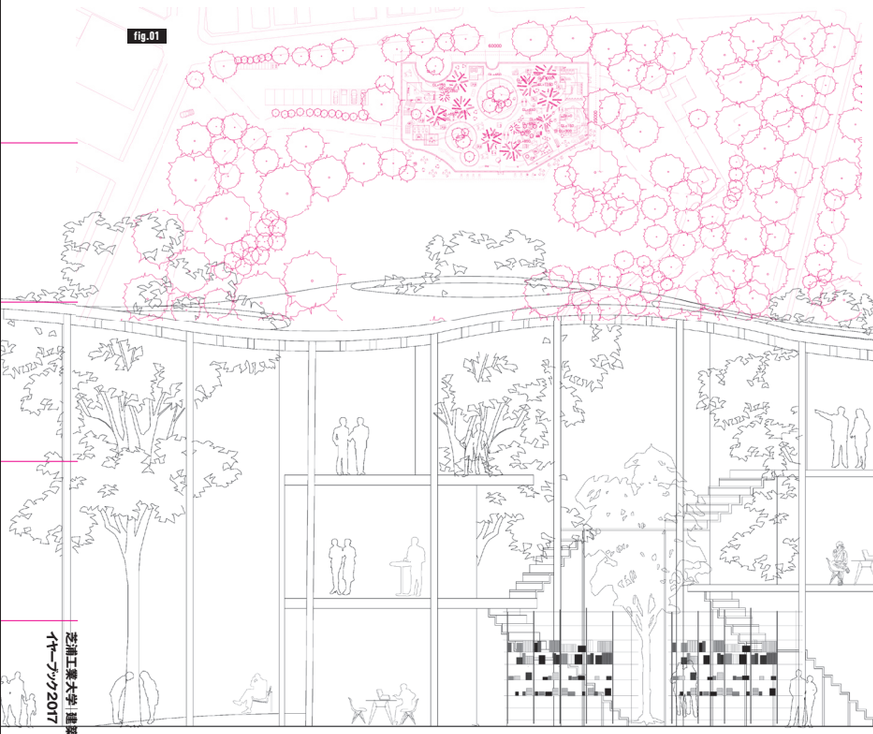


fig.02

fig.03

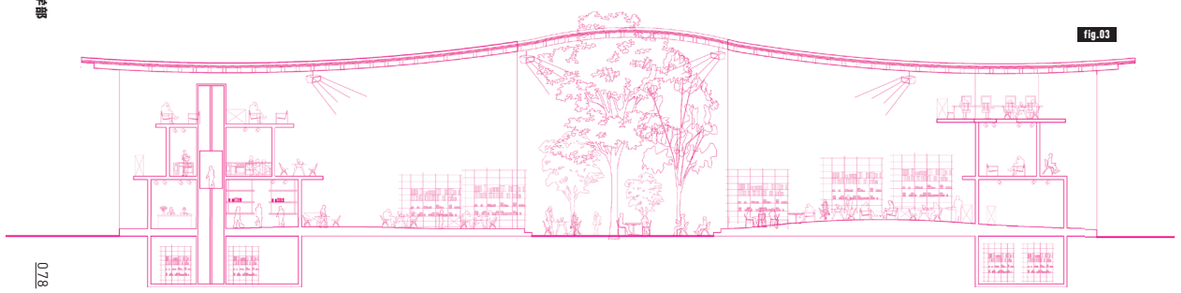


fig.04

fig.05

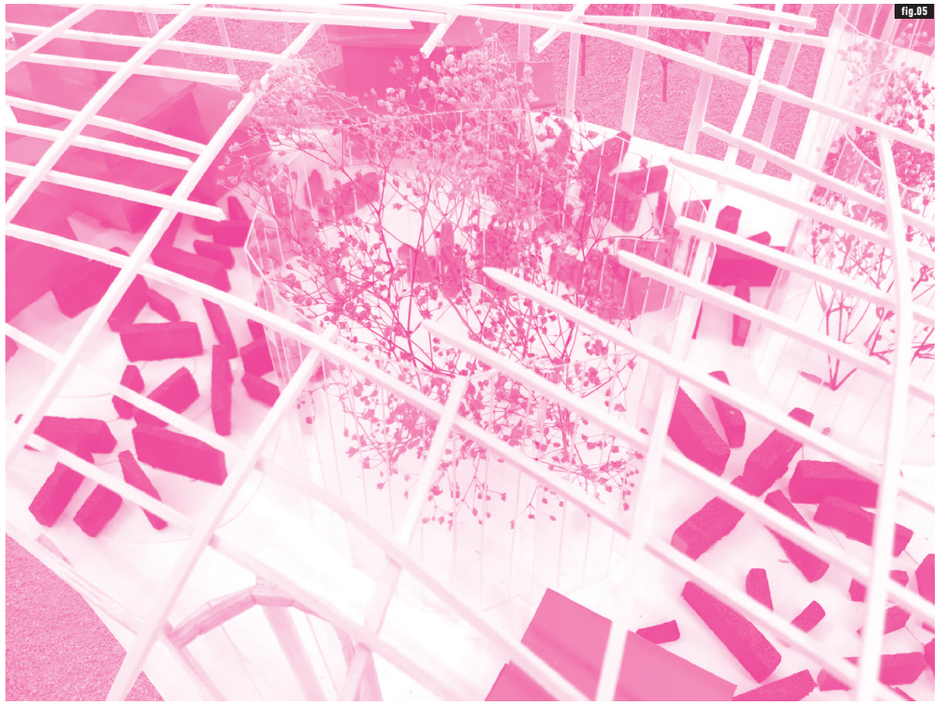


fig.01 配置図及び一階平面図／清澄公園の木々を囲み、隣接させることで建築内でも自然を感じる。幹のように配置された本棚から本を取り、お気に入りの空間で本を楽しむ
fig.02 西立面図／自由形状で構成された屋根面を既存の木々の位置で切り取り、内外を繋げる。カーテンウォールの壁面により開放感のある図書館に
fig.03 断面図長手／植物が根から養分を吸収し、葉から光合成をするように、中心から外に広がるアクティビティを展開する建物をデザイン。学びや育ちといったジャンルごとに盛り土された“森”を随所に展開させる
fig.04 外観模型写真／長手のファサードは外部の森と調和させ、学生や親子、駅からの広域客から入りやすい都市と公園の中間的な空間をこの図書館が担う
fig.05 内観模型写真／切り取られた屋根面によって、内部空間にいるのに本を読みながら外部空間の自然を感じる。広がる本棚配置から外部に活動が広がっていく

講評｜本課題は、市民の文化活動の拠点となる図書館を設計することを求めている。これからの図書館に求められる機能は、ただ本が並び、閲覧室が用意された旧来の公共施設とは大きく異なる。地域の住民が知的生活を行うに必要となる情報基盤であると同時に、互いに交流し、情報発信する場としても機能することが期待される。現在の区立深川図書館は清澄庭園、清澄公園に隣接した立地でありながら、空間的に一体となった計画になっているとは言い難い。提案された新図書館は、清澄公園の改善に寄与し、清澄庭園とも機能的、視覚的に連携したものとなるよう設計されていることが評価される。

3–03

課題
[地域の公共複合施設 成熟社会における 市民の文化活動拠点 としての図書館]

Regional public complex facility

工学部建築学科 建築設計演習Ⅲ
Department of Architecture
Exercise in Architectural Design III

市民の文化活動の拠点となる図書館を核とした複合施設を設計する。これからの図書館に求められる機能は、ただ本が並び、閲覧室が用意された旧来の公共施設とは大きく異なる。地域の住民が知的生活を行うに必要となる情報基盤であると同時に、互いに交流し、情報発信する場としても機能することが期待される。現在の区立深川図書館を建て替えるとしたら、どの場所に計画するのが最も妥当であるのかを、建築計画的な視点からだけでなく、都市計画的な視点や工事計画の視点からも、検討していただきたい。子育て支援、青少年活動支援、市民活動支援の諸機能や生涯学習の機能を複合化して、地域の総合的な生活拠点となり、新図書館がこの地域の持続的な発展に寄与していくことを望む。新図書館においては、清澄庭園と機能的、視覚的に連携したものとなるよう設計することが期待される。

課題担当 南一誠/郷田修身/古屋浩 Kazunobu Minami, Osami Gouda, Hiroshi Furuya
非常勤講師 佐田野剛/安宅研太郎/小川文象 Tsuyoshi Sadano, Kentarou Ataka, Bunzo Ogawa

深川 学びの庭園 | Fukagawa Learning Garden | ワタナ・ソングペチモンコル | Wattana Songpetchmongkol

Located in the east side of Sumida river (the main waterbody cutting central Tokyo in half), the Fukugawa library is situated in the south side of Kiyosumi garden. This project brings the program which is usually inside the library out into the nature and to attract the changing group of local young visitors in the area.
1___Propose new entrance: celebrating the new educational surrounding garden, making entrance free for students up to high school level. 2___Inside-out library: bringing the library program outside, turning the green space into the learning garden and old building into the archive. 3___Extension of old building: Bring out the program such as light reading zone, children play ground outside of the building to attract more local people to come. 4___Learning garden: The connection of learning garden with its six satellite pavilions scattered and distributed throughout the area, both inside and outside. 5___Linkage: The learning garden intended to connect with the nearby transportation system, school and museum. 6___District: Connection of the learning garden to outside, turning the entire area into the creative district, as a whole.

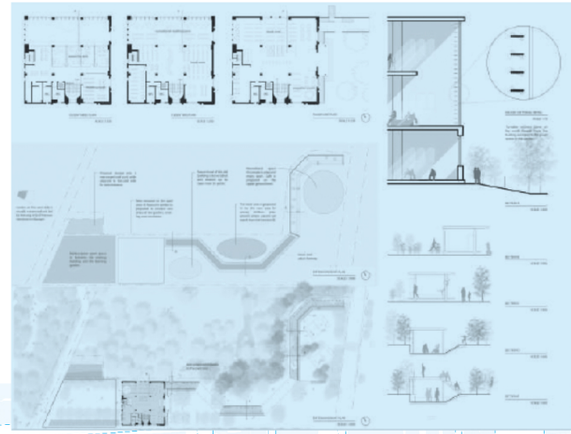


fig.01 既存図書館の改修計画案。清澄庭園との視覚的なつながりを改善している

fig.02 配置図。清澄庭園、清澄公園の中に、6つのパビリオンを配置している

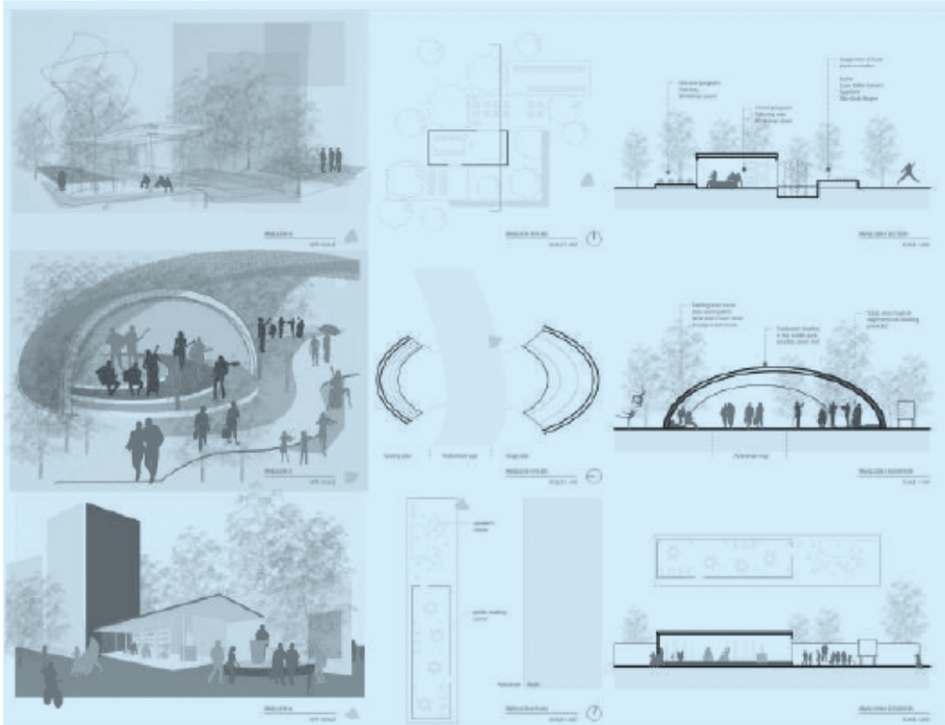


fig.03 地下鉄駅近くに建つアートをテーマにしたパビリオン。6つの施設の導入機能を有する

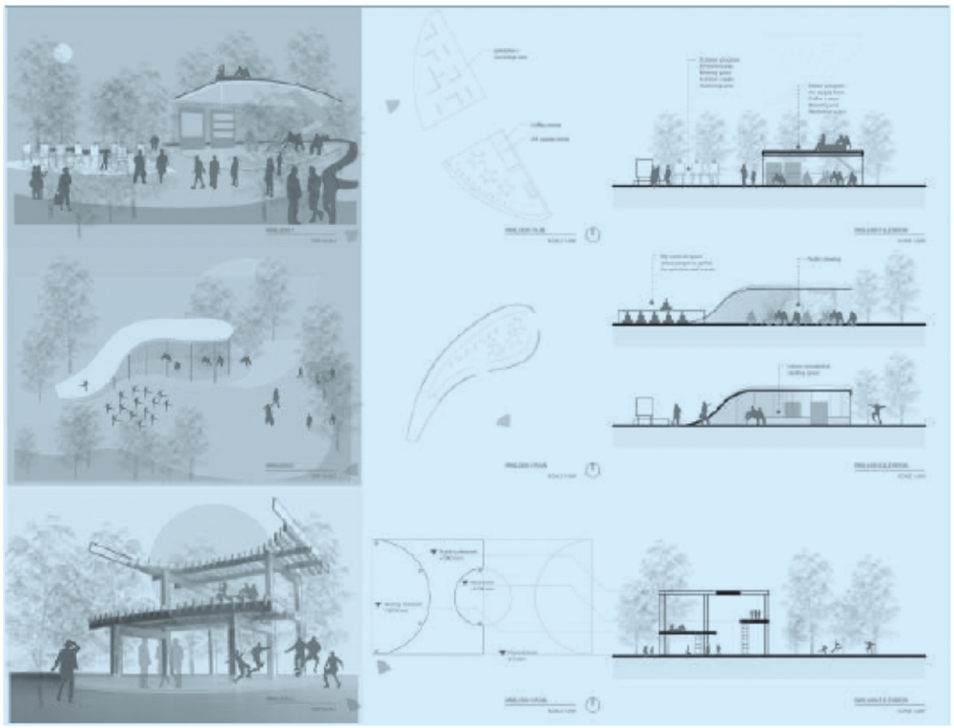


fig.04 清澄公園内に建つ音楽をテーマにしたパビリオン。ゆったりとした安らぎの空間と時間を提供する

講評 | 日本人学生80名の他、中華人民共和国、タイ、ブラジルからの交換留学生10名が履修した。この設計案は海外協定校のタイ、キングモンクット工科大学トンブリ校からの交換留学生Wattana Songpetchmongkolの作品である。敷地周辺の特性、要求条件を的確に理解し、これからの図書館に求められる諸機能を一旦分割し、清澄庭園、清澄公園の中に巧みに配置している。既存の図書館の改修提案も現実味がある内容である。

3-04

課題
[地域の公共複合施設 成熟社会における市民の文化活動拠点としての図書館]

Community Library in Fukagawa

建築学部建築学科SAコース
空間情報デザイン演習4/前期

SA Course, School of Architecture
Exercise in Space and Architecture Design 4 / 1st Semester

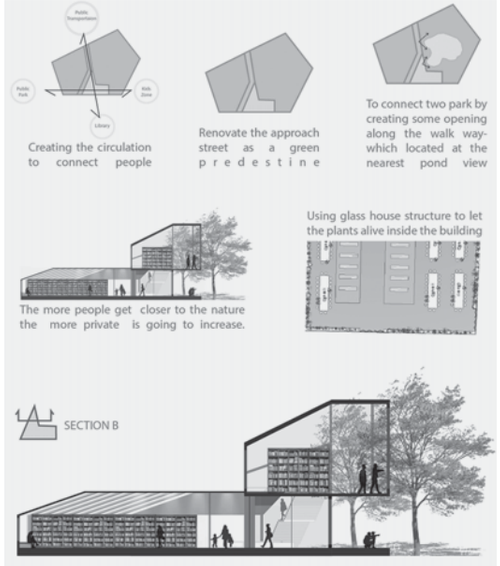
市民の文化活動の拠点となる図書館を核とした複合施設を設計する。地域の住民が知的生活を行うに必要となる情報基盤であると同時に、互いに交流し、情報発信する場としても機能することが期待される。どの場所に計画するのが最も妥当であるのかを、建築計画的な視点からだけでなく、都市計画的な視点や工事計画の視点からも、検討する。子育て支援、青少年活動支援、市民活動支援の諸機能や生涯学習の機能を複合化して、地域の総合的な生活拠点となり、新図書館がこの地域の持続的な発展に寄与していくことを望む。新図書館においては、清澄庭園と機能的、視覚的に連携したものとなるよう設計することが期待される。

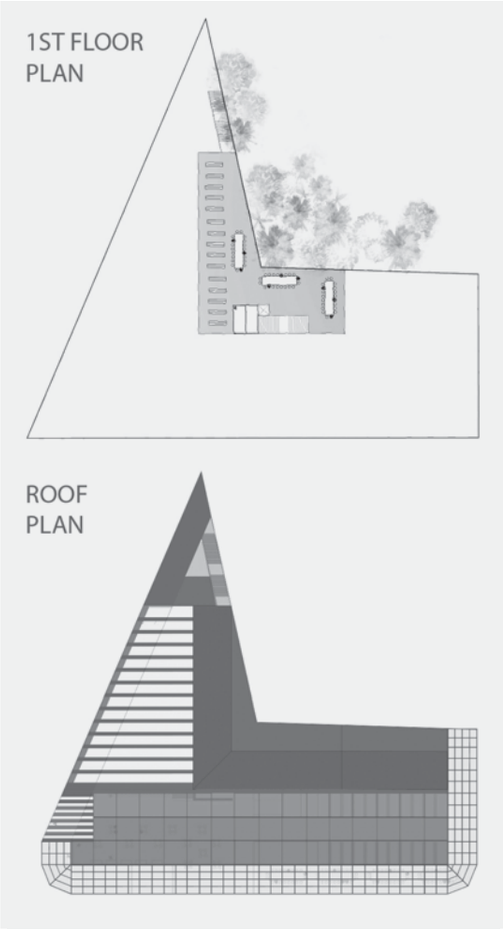
In the first quarter of the semester, students are expected to design a new Fukagawa library. Students may design a completely NEW library on the same site or add some annex building and renovate the exiting one. If students think it is necessary, students can move the site for the new library to the different place. Students are expected to design the most reasonable and attractive library for the local people. One of the important issues is how to well connect the library with adjoining Kiyosumi Park and Kiyosumi Garden.

課題担当 南一誠/郷田修身 Kazunobu Minami, Osami Gouda
非常勤講師 佐田野剛/安宅研太郎/高野洋平 Tsuyoshi Sadano, Kentarou Ataka, Yohei Takano

第1課題 | 1st Exercise | NARRATIVE LIBRARY | NARRATIVE LIBRARY |
ピムパソン・ガンバンパニハ | Pimpasson Gangvanpanich

The idea of reading with nature has been push to the concept of this project. In the order to respect the site and enhance the existing surrounding and existing activities, this project has created different routes to access the library with natural narrative.





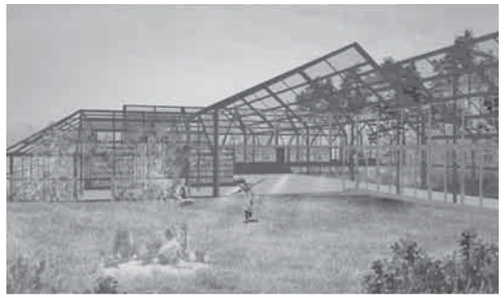


fig.01 左頁/上 | To connect two park by creating some opening along the walk way which located at the nearest pond view. **fig.02** 左頁/下 | Section

fig.03 左・上 | 配置図 **fig.04** 左・下 | 平面図・屋根伏図 **fig.05** 右・上 | ダイアグラム・断面図 | Creating the narrative that it can be seen when you walk since the first step when you arrived to the site until you got your favourite book. **fig.06** 右・中 | 外観パース **fig.07** 右・下 | 内観パース

講評 | 日本人学生75名の他、中華人民共和国、タイ、ブラジル、アイスランド、オーストラリアからの交換留学生15名が履修した。この設計案は海外協定校のタイ、キングモンクット工科大学トンブリ校からの交換留学生Pimpasson Gangvanpanichの作品である。敷地周辺の特性や図書館に求められる要求条件を的確に理解し、清澄庭園に接して、自然の中で本に親しむ図書館を巧みに設計している。[南一誠]

3-04

課題
[地域の公共複合施設 成熟社会における市民の文化活動拠点としての図書館]

Community Library in Fukagawa

建築学部建築学科SAコース
空間建築デザイン演習4／前期

SA Course, School of Architecture
Exercise in Space and Architecture Design 4 / 1st Semester

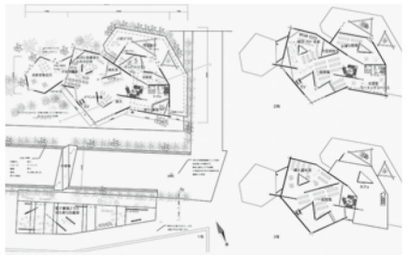
市民の文化活動の拠点となる図書館を核とした複合施設を設計する。地域の住民が知的生活を行うに必要となる情報基盤であると同時に、互いに交流し、情報発信する場としても機能することが期待される。どの場所に計画するのが最も妥当であるのかを、建築計画的な視点からだけでなく、都市計画的な視点や工事計画の視点からも、検討する。子育て支援、青少年活動支援、市民活動支援の諸機能や生涯学習の機能を複合化して、地域の総合的な生活拠点となり、新図書館がこの地域の持続的な発展に寄与していくことを望む。新図書館においては、清澄庭園と機能的、視覚的に連携したものとなるよう設計することが期待される。

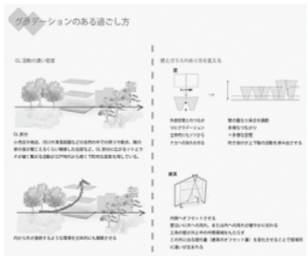
In the first quarter of the semester, you are expected to design a new Fukagawa library. You may design a completely NEW library on the same site or add some annex building and renovate the exiting one. If you think it is necessary, you can move the site for the new library to the different place. You are expected to design the most reasonable and attractive library for the local people. One of the important issue is how to well connect the library with adjoining Kiyosumi Park and Kiyosumi Garden.

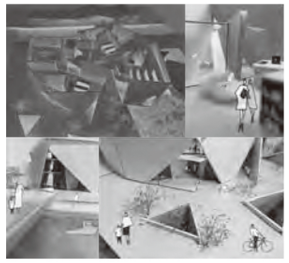
課題担当 南一誠／郷田修身／山代悟／小澤雄樹 Kazunobu Minami, Osami Gota, Satoru Yamashiro, Yuki Ozawa
非常勤講師 安宅研太郎／佐田野剛／高野洋平 Kentarou Ataka, Tsuyoshi Sadano, Yohei Takano
TA 上田洋平／石田拓也 Yohei Ueda, Takuya Ishida

第1課題 | Exercise 1 | 箱をやめた図書館 | Library liberated from the box | 柴垣映里奈 | Erina Shibagaki

コロナ期間、清澄白河周辺の住民は親水公園や緑地に気分転換に来ており、身近な外空間の気持ち良さを再認識しているのが印象的であった。ここでは、都内にありながら自然が近くにあり下町感を残す清澄白河の、ソトとナカがゆるく繋がる環境の可能性に着目した。箱に留まらず、清澄白河の環境やコミュニティーを生かしてソトとナカの途切れない居場所を作る。そうしたグラデーションのある居場所は、本のstockと読む事にとどまらず、映像やコミュニケーションからの学びなど人の多様な学び方に応じた空間を生み出し次世代の図書館の役割を担う。同時に多様な学び方は情報やテクノロジーを取り入れ、概念的な箱からの解放も必要とする。







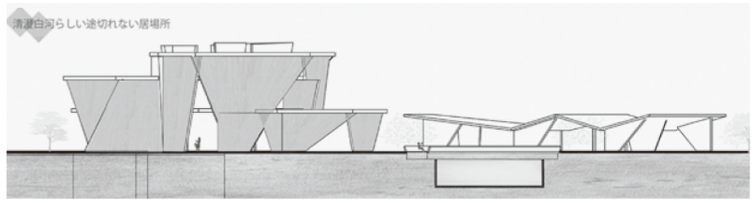


fig.01 上｜模型写真：子供図書館を見る
fig.02 中・左｜図：1.2.3F 平面図
fig.03 中・中｜図：ダイアグラム
fig.04 中・右｜模型写真：内外イメージ
fig.05 下｜図：立面図

講評｜この課題では、現深川図書館を再整備するにあたり最も適切な敷地を、自ら選定することが求められる。現在の深川図書館と同じ位置、あるいは隣接する敷地に新築、増築するだけでなく、本館とサテライトに分ける提案、機能を街に分散させ移動図書館で結ぶというような提案も可能である。清澄庭園内、清澄公園内、その間の道路沿い、運河沿いの細長い敷地、清澄庭園沿いの敷地と運河沿いの敷地の連続、運河の南側エリア、大通り沿いの既存建物の改修+増築など多様な選択肢がある。本提案は、運河と図書館の間に魅力的な関係性を持たせたことが優れている。［南一誠］

SA4

課題1
[地域の公共複合施設 成熟社会における市民の文化活動拠点としての図書館]

Exercise 1:
Community Library in Fukagawa

建築学部建築学科SAコース3年
空間建築デザイン演習4a／前期

SA Course, School of Architecture, 3rd grade
Exercise in Space and Architecture Design 4a / 1st Semester

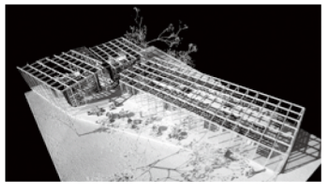
市民の文化活動の拠点となる図書館を核とした複合施設を設計する。地域の住民が知的生活を行うに必要となる情報基盤であると同時に、互いに交流し、情報発信する場としても機能することが期待される。どの場所に計画するのが最も妥当であるのかを、建築計画的な視点からだけでなく、都市計画的な視点や工事計画の視点からも、検討する。子育て支援、青少年活動支援、市民活動支援の諸機能や生涯学習の機能を複合化して、地域の総合的な生活拠点となり、新図書館がこの地域の持続的な発展に寄与していくことを望む。新図書館においては、清澄庭園と機能的、視覚的に連携したものとなるよう設計することが期待される。

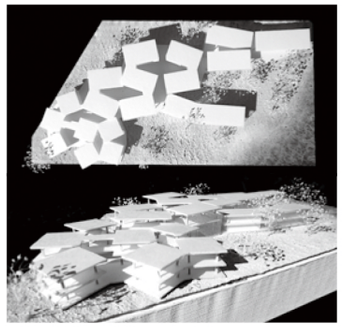
In the first quarter of the semester, you are expected to design a new Fukagawa library. You may design a completely NEW library on the same site or add some annex building and renovate the exiting one. If you think it is necessary, you can move the site for the new library to the different place. You are expected to design the most reasonable and attractive library for the local people. One of the important issue is how to well connect the library with adjoining Kiyosumi Park and Kiyosumi Garden.

課題担当 南一誠／郷田修身／山代悟／小澤雄樹 Kazunobu Minami, Osami Gota, Satoru Yamashiro, Yuki Ozawa
非常勤講師 安宅研太郎／佐田野剛／高野洋平 Kentarou Ataka, Tsuyoshi Sadano, Yohei Takano
TA 田中翔平／辻恵里佳 Shyouhei Tanaka, Erika Tsuji

時を紡ぐ——過去から現在、そして未来へ繋ぐ図書館 | weaving time—the library connecting from the past to the present and future | 東尚生 | Naoki Higashi

本が情報によって置換されつつある現代では、「図書館」というビルディングタイプの必要性が問われている。そのような「情報化社会における図書館」の存在意義は、良い本との偶然の巡り合わせ(=セレンディピティ)であると考え、ダブルグリッドの角度を振ることによって、内部機能の変化を許容しながら自ら動線を自由に開発できるような空間を構成していく。この「どこにでも広がりうる」形式は、互いに乖離された清澄公園・庭園の敷地特性を読み取りながらグラデーショナルに空間を繋ぐことで、ランドスケープの魅力をも増幅させる。こうして「ここにしかない」形式へと昇華した建築は、長くこの地に根付き、住民に親しまれることを願う。





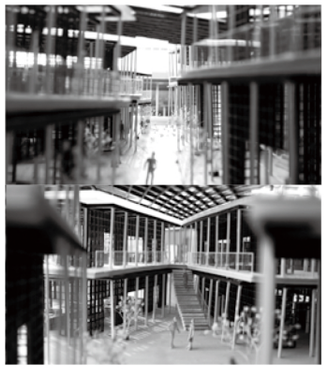


fig.01 上・左｜CGメインパース **fig.02** 上・右｜構造模型：構造体本棚により「図」と「地」を空間として切り分け、開かれた本は内と外を緩やかに繋いでいる
fig.03 中・左｜敷地模型：土地の起伏・人々の振る舞い・場所のコンテクストの対比言語による要素を建築化している
fig.04 中・右｜内観模型：ダブルグリッドにより「図」と「地」が明確に分かれ、オープンスペースが生まれている
fig.05 下｜構想－手法－形態(=デザインサイクル)の一連の変遷(左：中間講評時、中央：最終講評時、右：ブラッシュアップ時)

講評｜設計対象としている江東区立深川図書館は、清澄庭園、清澄公園に隣接した立地でありながら、連続性が乏しいため、新たに計画する図書館においては、清澄庭園等と機能的、視覚的に連携したものとなることを期待して出題している。履修者は現位置に建て替えても、その東の公園広場や児童公園の場所に建て替えても、あるいは道路を挟んで向かい側の仙台堀川に面した敷地に計画しても良い。どの場所に計画するのが最も妥当であるのかを、建築計画的な視点からだけでなく、都市計画的な視点や工事計画の視点からも、検討することが求められている。YBに掲載された設計案は、清澄庭園、清澄公園の歴史的経緯も踏まえて、図書館を中心部に配置し、一体的に再整備することを提案したものとして評価される。［南一誠］